

知の創造のためのオフィス戦略の アプローチ

住友商事(株) 堀尾 吉晴

住商ビルマネジメント(株) 栗飯原 靖

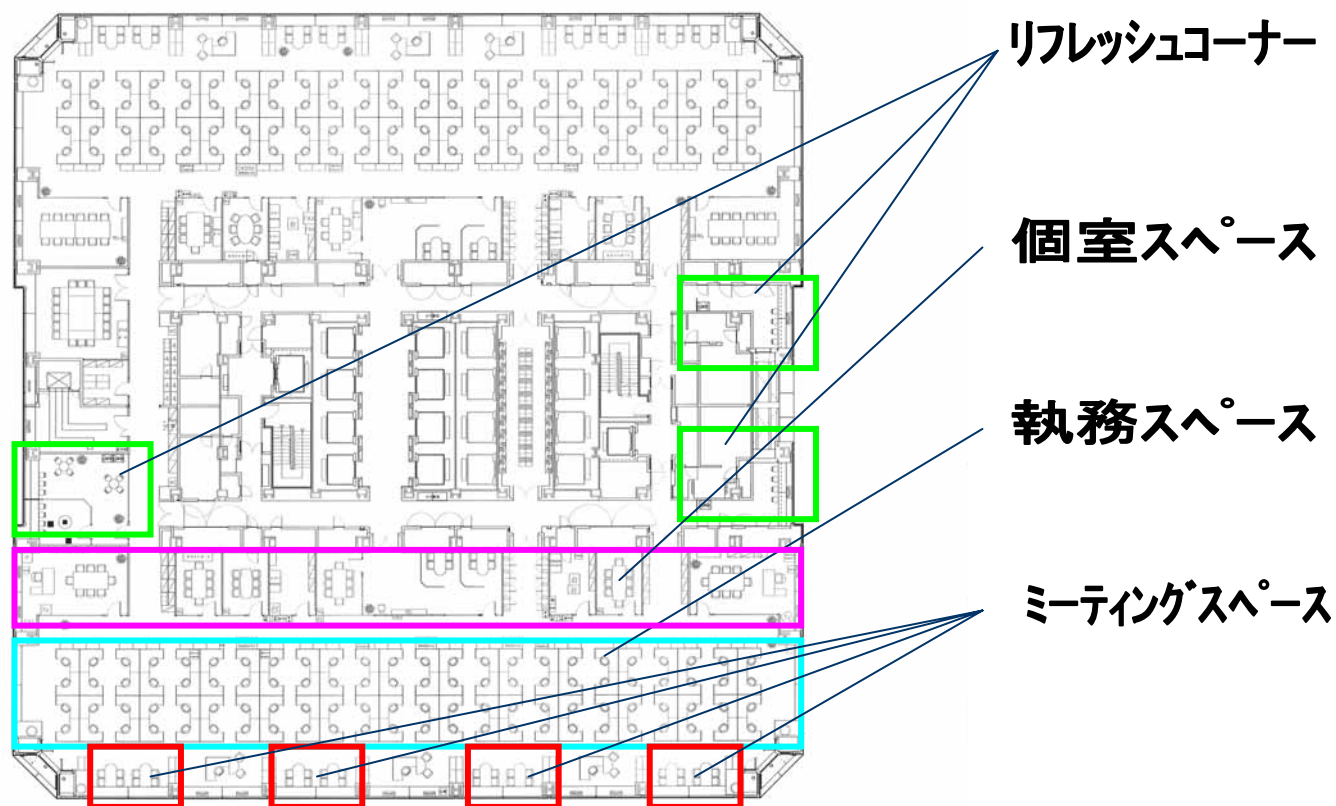
日本のオフィスの動向とポイント 1

- 住友商事本社オフィス(2001年)

内装・家具の標準化による
ユニバーサルレイアウトプラン
ケープ&コート型ワークステーション

日本のオフィスの動向とポイント 2

● 住友商事本社オフィスレイアウト



日本のオフィスの動向とポイント 3

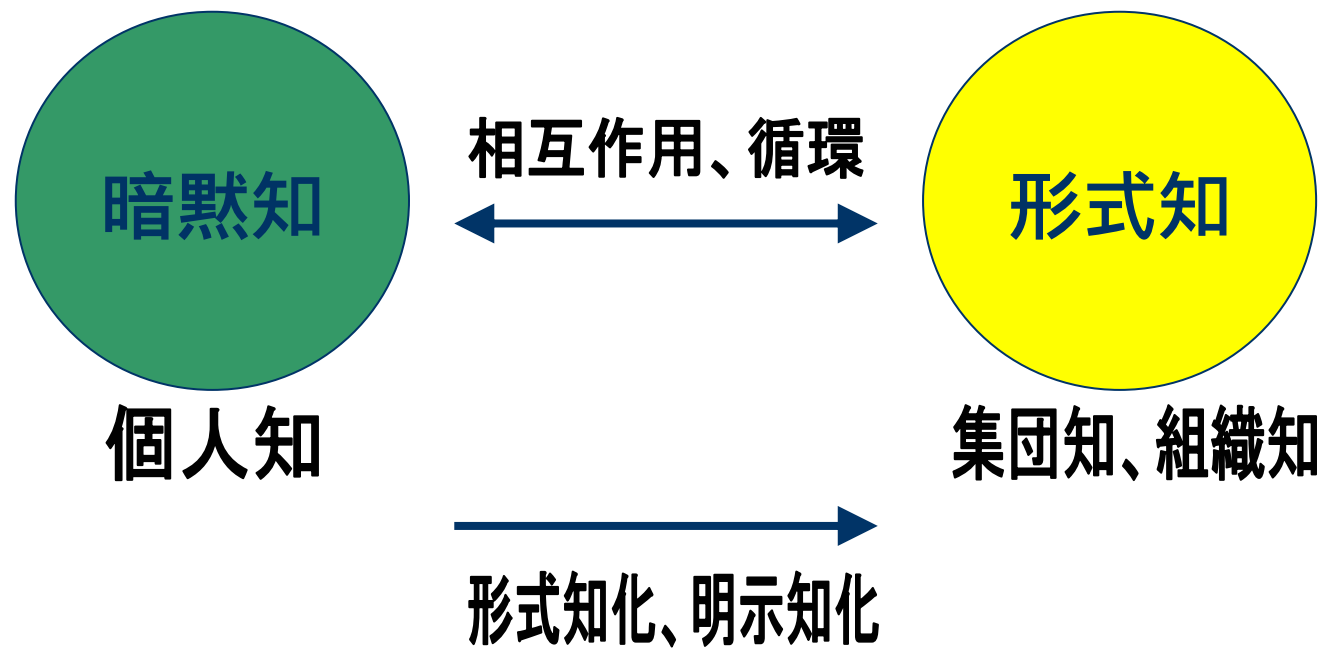
- **N生命東京本部(2004年)**
フロア中央部にコミュニケーションスペース
- **R社(2007年)**
コミュニケーションの増量
- **M商事本店オフィス(2009年)**
ケーブル&コート型ワークステーションからの脱却
- **先進型企业**
(外資、IT、ソリューション、リテイルetc.)

おさらい1

- キーワードは、コミュニケーション
- コミュニケーションの活性化による
新たな知(知識)の創造
- オフィスはコミュニケーションの装置空間
(人々の出会いと交流を誘発する多彩な仕掛け)

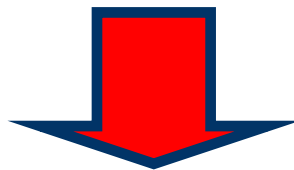
おさらい 2

- 知の創造プロセス



課題の提起 1

- 知の創造の源泉は個人(暗黙知)
- 暗黙知が貧困であれば、いくら形式知化しても質の高い知の創造は生まれない



自立した個人の知力を徹底的に鍛え上げる必要がある

課題の提起 2

- 知力のない国・企業は滅びる
 - 企業にとっての究極の資源は「知の力」
 - 強い企業になるには、「知の力」を生み出す以外に方法はない
- 経済の閉塞感を打破するカギ**
- 「知の力」を生み出す絶好の機会

日本人の知の後退現象

- 考えない人が増えている
- ただ流されて生きている
(意識的に付加価値を加えていない)
- 本を読まない
- 気の合う人とのみのコミュニケーション
しかない(視野狭窄)

ビジネスマンの学び

- **通勤電車の中で何をやっているか**
往復 2時間 > 起きている時間の1割以上
半数以上の人、何もしていない
- **読書量：1年間で単行本 3冊**



学びは大丈夫か

無限に学んでいくという覚悟で生きている人が
どれだけいるか

参考になるもの

- 科学技術の研究者
- アスリート
- 芸術家
- 匠(職人)etc.

すさまじい努力をしている

連続的・反復的プロセスによる成果の創出

自立した個人と知力の向上が重要

- 教育・研修だけでは知力は向上しない
(やらされている感)
- 一人ひとりの自立性(自発性)と
高い知力がベース
- 自己教育
 - … 知力は個人の学びの中でしか生まれない
 - … ひらめきは学びの蓄積から生まれる
- 自分に対する投資が必要

方法論 1

- なりたい自分に向かって絶ゆまぬ研鑽
 - …自分が学びたいことこそ
 - 自発的・効果的に学べる
- まずは好奇心
 - …興味のある分野を見つける
 - …興味をもてば必要な知識は身につく

方法論 2

- 学び

1日 3時間 死に物狂いで鍛錬

(通勤時間 往復 2時間 +

1日のうちから 1時間を捻出し、習慣化)

* 1年間で 720時間 = 3時間 / 日 × 240日 (営業日数)



知力向上の実感が得られる

おさらい 3

- オフィスコンセプトのキーワード
どうバランスさせるか

柔軟 (Flexibility)

集中 (Concentration)

共有 (Communication)

協働 (Collaboration)

快適 (Comfort)

今後のオフィスコンセプトに 付加したいもの 1

- **会社の中に知欲の風土をつくる**
貪欲な知の創造のメカニズムを組織の中に
仕組みとして埋め込んでいる会社は強い
- **組織単位毎に散在・埋没している**
膨大な「知」に横串を通す取り組み

今後のオフィスコンセプトに 付加したいもの 2

- 知力の向上・結集と
パワーアップのための場作り

個人の主体的学習

自己学習、自己省察、豊かな原体験を与える場
仲間と語り合いながら行われる学び

学び合える場、対人技術向上の場
(汲み取る、伝える、伝わる)

APHORISM

学ぶ人は伸びる人

学ばない人は消えゆく人

ご清聴

ありがとうございました